



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



條約十一國記  
全

ル 2  
1182



門 儿 2  
號 1182  
卷

# 條約十一國記

明治三十九年一月廿九日  
水谷弓彦氏寄



## 條約十一ヶ國旗章

ぢやうやくじゅういっけこくきしやう



あめりかう  
亞米利加  
國中の人別  
三千一百万人



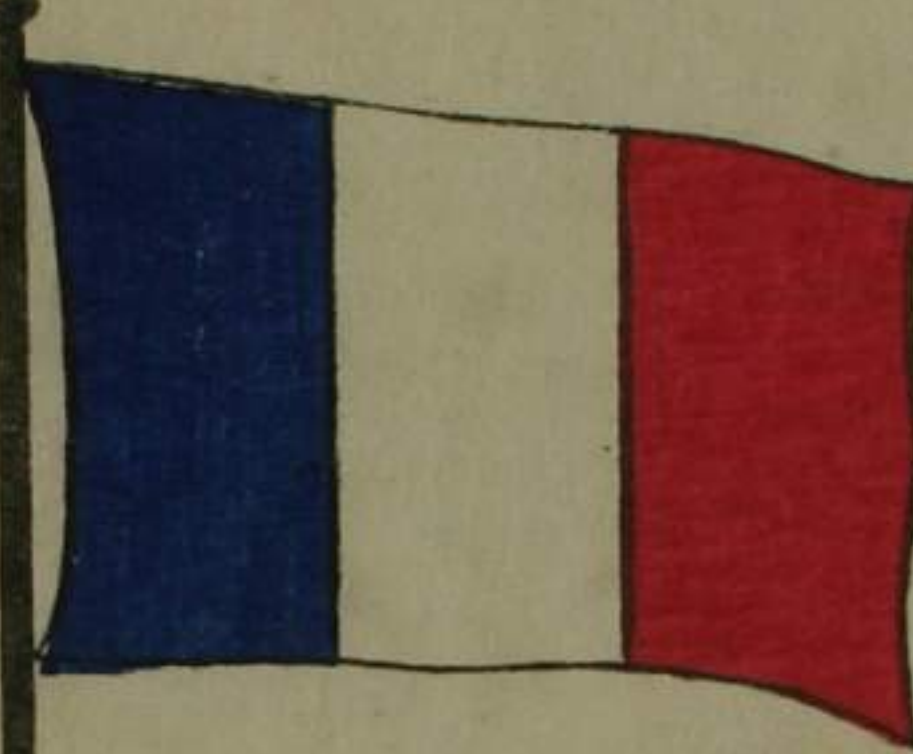
おらんご  
和蘭  
國中の人別  
三百万人



白耳義  
國中の人別  
四百四十万人



字漏生  
國中の人別  
千六百万人



佛蘭西  
國中の人別  
三千五百万人



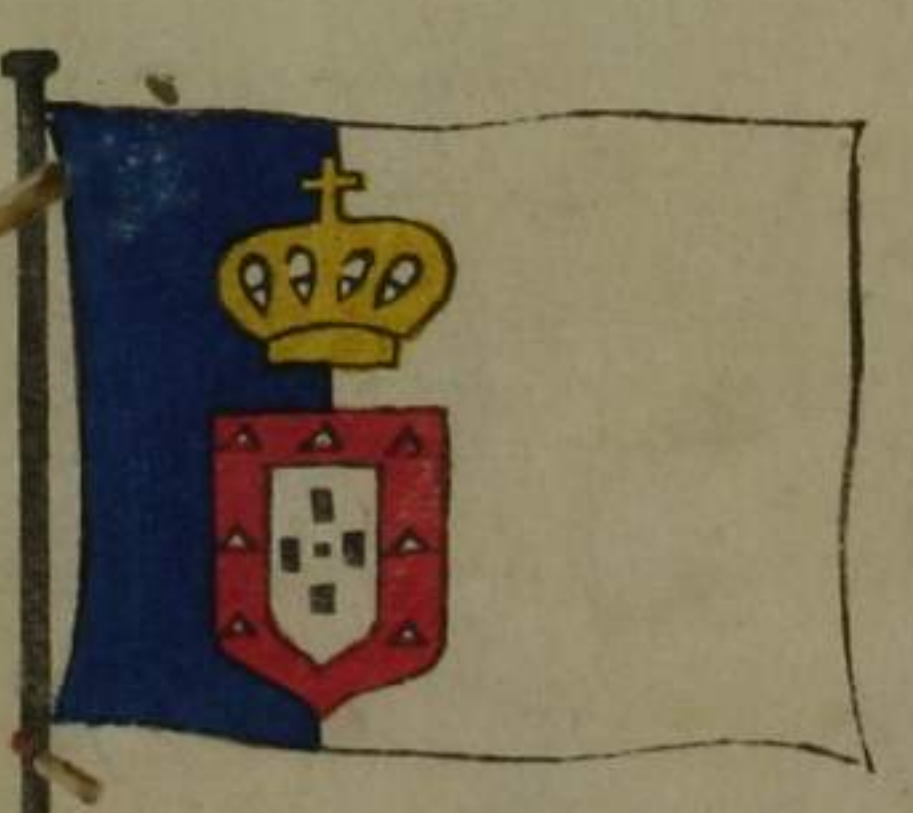
英吉利  
國中の人別  
二千七百万人



伊太里  
國中の人別  
二千万人



瑞西  
國中の人別  
二百万人



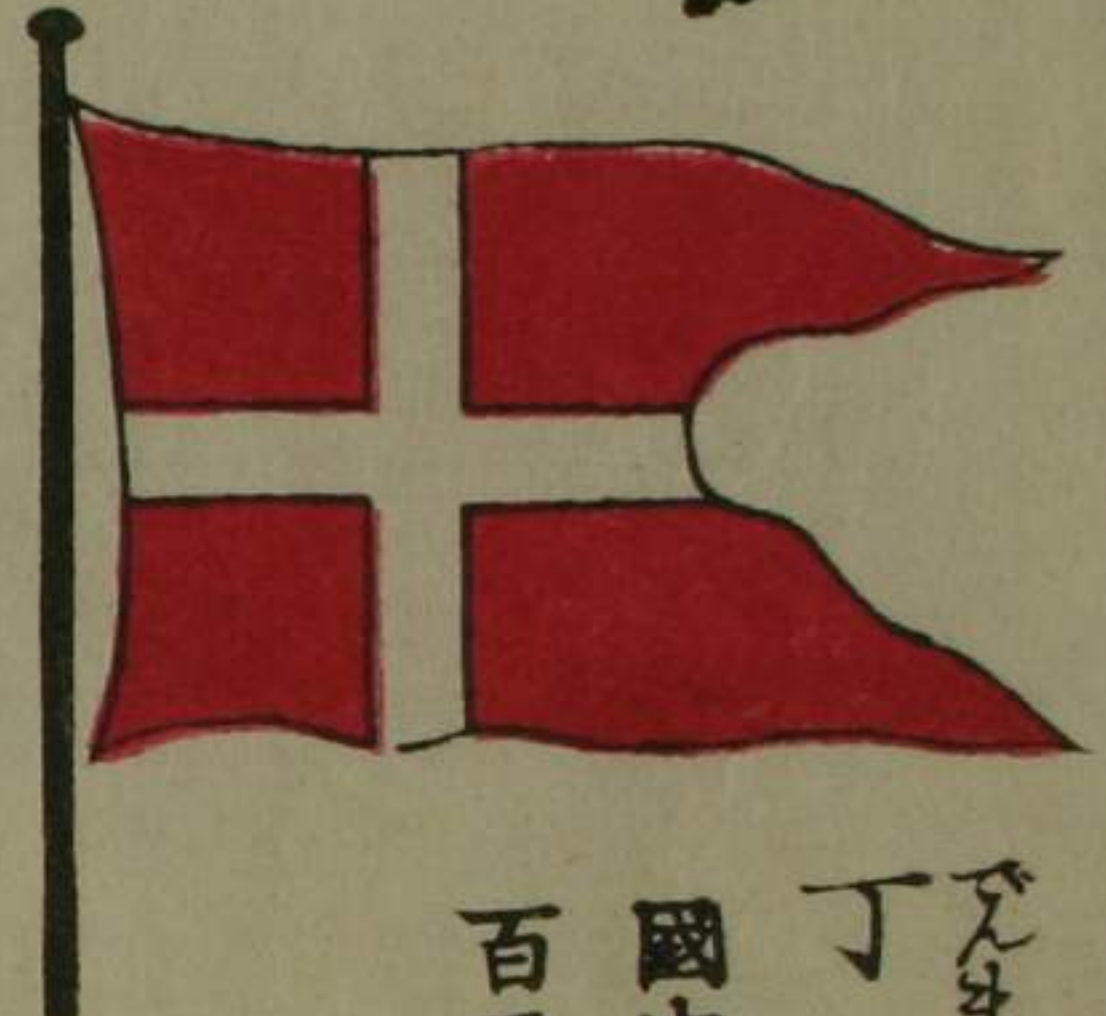
葡萄牙  
國中の人別  
三百五十万人



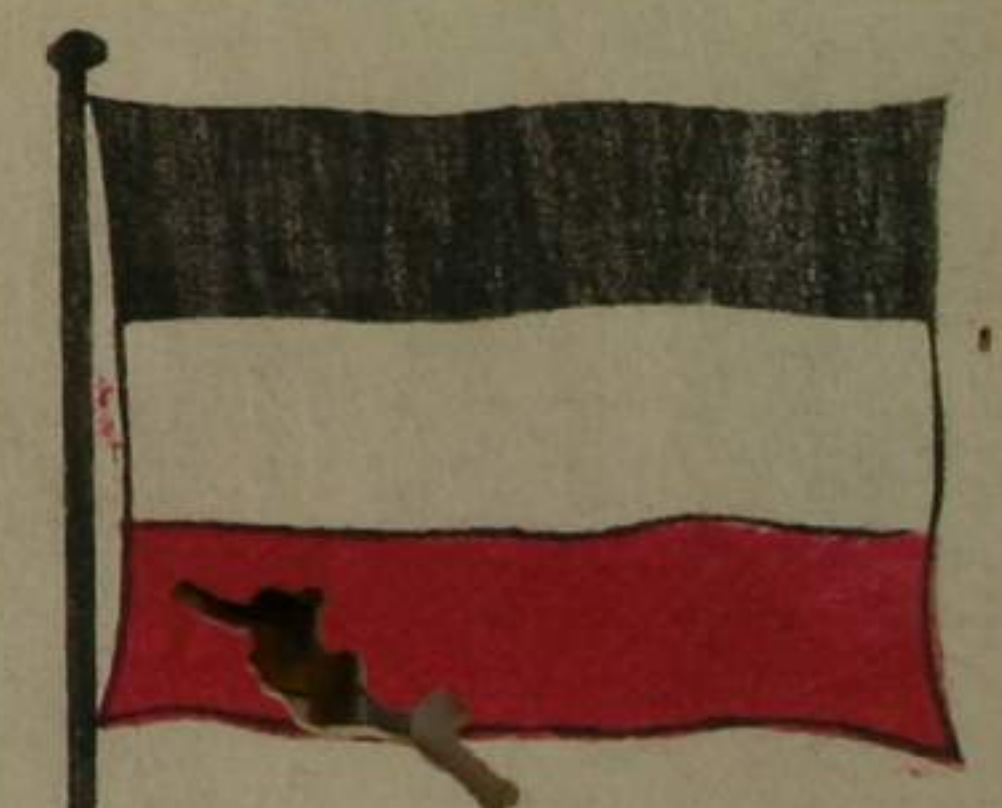
魯西亞  
國中の人別  
六百万人

條約十一國記の和解  
 條約といふ約束といふ去るは此國と彼國と永  
 代睦下く附合其國の産物とも互に賣買をべ  
 との趣と固く取極とするものなり其取極の箇条  
 と證文に認る兩國双方の間取替せしものと  
 條約書といふ安政五年より今茲應三卯年  
 まぎ西洋の國々より日本へ來て條約と結び條  
 約書と取替せしもの十一國ありて其國の人々  
 日本との交易場へ住居する者も多し然るに我國

右の外軍艦の旗章あど色々あまどり其数多け  
 きばあまに畧す



丁抹  
 國中の人別  
 百五十万人



字漏生  
 の新旗  
 慶夜三  
 年改る

以下々の人の外國の様子と知らざ外國人と  
 見れば一口に唐人唐人といふ者多けども既  
 條約とも取結び一國のまともは其國の  
 人と見る斗にて其人の何といふ國より來て其  
 本國の模様は如何なる哉といふまとも知らざ  
 るはあまり不都合なる也一冊の小冊子に其  
 國々の大小強弱人情風俗政事の立方とも極々  
 あらましに記して條約一國記と表題と附と  
 なる

條約十一國記

福澤諭吉 著

亞米利加は日本の東五千里の所にある國なり  
 其都をワシントンといふ國人の數三千一百万  
 人世界に名高き大國なり一亜米利加と名づけ  
 界五大州の内の一州にて南亞米利加と北亞米  
 利加と二分其内に色々の國ありて今日日本  
 にて亞米利加と唱ふる國は北亞米利加州の内

の合衆國といふ國なり故に其名目と糾せば北  
 亜米利加之合衆國といふ處を善なきとも南北  
 亜米利加と擧て一番大なる國は合衆國なる也  
 へ亞米利加といふ名を合衆國に取らば亞米利  
 加といふは合衆國のまとい通用せざるなり  
 かしんとんは其都なるも格別繁昌の場所  
 あらざ亞米利加にて一番繁昌なるはにうよる  
 くといふ所なりよの町は數の百万人もあり  
 て商賣の盛なるまとい日本にて大坂ともいふ

がき都會あり

かしんとんはにうよるく、亞米利加之西側に  
 日本より五千里もあはれども其東側にさんふら  
 んしんとんとて一の港ありよの港へ丁度日本の  
 真東に當り道程二千五百里斗の町にて飛脚船  
 に乗れば二十日あまりにて行く處よの町も  
 起立以來二十年に足らざる新港なきともよき  
 場所柄なり

此國の周圍五千里斗東西に長し其差渡一凡そ

千四百里あり産物ハ國の東の方以牧多く牛馬  
 羊等と畜ふ西の方ハ小麥蜀黍南の方ハ綿  
 烟草砂糖又金物織物等の産物ハ「イ」  
 ふもとんあど心へる所と始として都て國の西  
 北の方以多一外國との交易繁昌して一年の間  
 以外國へ出外國より來る商賣船四五万艘もあ  
 る由なり  
 金銀銅鉄の類も多く殊に「イ」んふらん「イ」  
 道邊ハかりほるあやといふ所以て世界中に

らをん金銀の多し出・場所あり  
 此國ハもと英吉利の領分なり「イ」今より八十  
 二年前彼國の千七百七十六年「イ」被國音の改行ハ  
 三卯年「イ」紀元一年と「イ」順々計て今茲慶應即ち日  
 本の安永五年其國の人義兵と舉てわしんとん  
 といふ人と大將に立英吉利と八年の間合戦し  
 てまゝに打勝ち遂に獨立の國となり其後追々  
 農業と勉め産物と開き諸國と條約を取結て交  
 易と盛に一國富兵強くして英吉利佛蘭西など

三

の八國とも押付る程の勢とを以り  
此國は國王なく輪番持の政事あり其頭取と  
大統領といふ國中の人入札にて其を撰び四  
年の間大統領の職と勤む又入札にて其交代  
の人と撰ぶ其外諸役人と引揚るにも大抵入札  
にて四年々六年の間役と勤む又新規の人と  
用る風俗あり

和蘭ハ旧來日本と交易し長崎の出嶋に商館も  
和蘭又荷蘭又和蘭唯又何ら

あり一あとあるが西米利加人渡來の後新に條  
約と取結て外國々と同様の振合あり横濱其  
外の港へも來る交易商賣とせり  
此國往古ハ兵力強く交易盛にして英吉利など  
以ても和蘭に負はるほどの事あり一が其後  
追々に衰微して尚又彼國の千八百三十年即ち  
日本の天保元年に至り國中ハ騷動ありて二に  
分きてより國も狭くなり當時ハ國人の數三百  
万六斗に達し迎も英吉利佛蘭西などに及ぶ



古來より國の風俗に交易商賣の上手也  
 國の地面は平地にて低し且一体は濕地にて農  
 業に不都合なきども多く牧を閑し牛を飼ひ  
 其乳汁にてぼふとろなど製し諸方へ積出さ  
 和蘭のちを人の産物なり  
 和蘭の都といふは唯國王の住居する所  
 此商賣の場所あらざ外國の交易繁昌する  
 所ありあむとろだむといふ都會なり此所は  
 よき港あり且市中に掘割の川多くして川舟

の運送甚だ便利なり川々に橋の数三百あり  
 て市中の掃除よく行届けり一体和蘭人の奇麗  
 好といふ評判あり國あり  
 都て和蘭人の質素儉約にて學問も商賣も  
 出精とよき風俗なり又男子は烟草を好む彼  
 國の諺に「一烟管とせぬ和蘭人と見よ」と  
 といふ程なり烟草あども國々の風俗人々  
 の好惡に或は巻烟草とのむ者もあり或は刺  
 烟早とのむ者もあり亞米利加人の嗜烟草とて

餅もちよふに固こめとる烟草たばこと口くちに人ひとを啗くむ者もの  
 多おほく日本にっぽん人の目めにて見みえばたまらぬとあるは  
 ども其人そのひと々の習なれにて炯けむりと吹ふきよりよきと  
 ある筈はず一  
 和蘭わらんの本國ほんこくハ狭まき國くになきども世界せかい中方ちゆうほう々々一領りやう  
 地ち多く川かわ哇わふども一いつつ嶋しまハ日本にっぽんの西南しんなん千せん五ご百ひゃく  
 里斗りとうの野のにありて和蘭わらんの領分りやうぶん中ちゆうに一番いちばんよき所ところ  
 あり

英吉利いんぎり一名いちめい大不列顛たいふれつてん又また英國いんこく又また英人いんじんハ  
 ちんども又また別べつれいといふなり

英吉利いんぎりハ歐羅巴州おうろぱしゅうの西北せいほくの方ほうに離りれて名なんげ  
 らんどをこつとらんどといふらんどもといふ三  
 箇國さんこくを合せとる一いつの島國しまこくあり廣ひろき大抵たいてい日本にっぽんと  
 同おなじ位ゐに國人こくにんの數かず二千七百万にせんしちひゃくまん人ひと余あま産物さんぶつの多おほ  
 く交易かうぎの盛さかあるハ凡たゞそ世界せかい第一だいいちなり一いつ自國こくに  
 の商賣しょうばい船斗せんとうにとも三万五千艘さんまんごせんさうの余あまあり國內こくにに  
 て製つくる産物さんぶつハ絹布きぬぬい更紗さら羅紗らさ吳縞ごこう服ふくの類るい又また金  
 物の道具たうぐ類るいも多おほく土地とちに出來でる物ものハ麥麻芋むぎあやの  
 類るいより相あり英國いんこくにて米こめハ出來でる

英吉利の都を「 لندن」といふ市中の中二里長  
 さ三里半住人の数三百万人に近し都の中程に  
 て「 むき」といふ大河あり其中ハ江戸の隅田川  
 と同ト位なまきとも隅田川よりも深し河の兩岸  
 小船入幾個所もありて諸國の賣船去るに出入  
 交易繁昌なり此河ハ架さる橋の数八つ何れ  
 も右橋又ハ鉄の橋にて木の橋ハ一又其河  
 下ハ至りて「 むき」といふ珍らしき仕  
 掛ありまきハ河の兩岸より地の底と掘て通板

の洞穴と造り石垣に其内と疊詰り往來の道  
 とあり水底の又其底と徒歩にて行くよふに  
 たるものあり故ハ此洞穴と通板て向岸に渡る  
 ときハ固より目ハ見つぎまきとも川の舟ハ頭  
 の上と往來をもあり  
 英吉利ハ鳴國にて敵の來るまとも少き故に  
 陸軍の入まハ少けまきとも海軍ハ萬國に勝さる  
 必のまり軍艦の数千艘に近く本國の要害にも  
 備へ又世界中を見廻て自國の商賣船と守護せ

英吉利人の世界中に威勢と耀を以て全く此海軍ありに由てあり

英吉利の本國はさまで大國ともあらざとも其飛地領分の廣き他に比類なき凡そ五大州の内は英吉利の領分あらざり一當時世界中第一番大國なるは支那に比ぶるに續くもの英吉利なるべし魯西亜など國の廣き世界第一なきとも國民の數に至りては支那英吉利に及ぶざるなり

英吉利の人へ金持と貧乏人と學者と文盲と打交て甚ど不揃なり數百萬兩の身代に大名家に居る者もあり裏店住居にて朝夕の暮向不固る者もあり文學藝術世界に名高き大先生もあり無學文盲一字と知らざる者もあり又國中一体に衣服よりも食物に奢る風俗なり英吉利人の噲倒佛蘭西人の着倒といふ諺あり  
英吉利の政事ハ國王一人の自由にならば國中家柄の人々寄集り評議とさる者と上院の評議

役といひ又町人百姓より入札に人撰しとる  
 役人と下院の評議役といふ右上官と下院と國  
 王といふ政事向を取扱ひ若し國王の我終れて  
 運上の取立方罪人の仕置等のおとに付無理と  
 するおとあはば此評議役おて取押し仕來なり  
 國王の位不立つ者ハ男女とも差支な一當時ハ  
 女王に其名をひくとりやといふ

魯西亞又俄羅斯又

魯西亞ハ歐羅巴州と亞細亞州と亞米利加州と

三大州に跨り國の廣きおと凡そ世界中を六に  
 分て其一分ハ魯西亞の領分なりさほど地面  
 の割合おしてハ人の數少く六千四百萬人に足  
 らず魯西亞ハ他の歐羅巴諸國と違ひ國の開け  
 揮くして千六百年の末年緑までハ田舎國なり  
 一が其頃べいといふ英雄の君位に即てよ  
 り大に國と改革し内乱と取鎮め外國に打勝ち  
 べいといふをばつといふ所一都を移し始て大  
 國の名と得たり

魯西亞の産物に、外國一積出さるもの、五穀材、木、鉄、皮、麻の類あり、近來ハ又木綿、縮布、毛織物、瀬戸物、硝子、紙等も製して國の産物とせり。又、石、金、銅、鉛、といふ所ハ、金山あり、罪人と此地に遣て、金と堀り、年々莫大の利益あるよし。魯西亞にてハ、兼く政府より學問の世話あり、且、國も廣く、とて田舎の方ハ、いまだ十分、小行届らざ、國中の人と平均して讀書の出來る者ハ、百四十人の内に一人の割合なり。

魯西亞にハ、陸軍の數甚ぞ多し、近來ハ、又海軍をも仕立て、佛蘭西の海軍に續くやとの軍艦あり。此國ハ、歐羅巴の北の方に在て、外國より攻寄る、ふ、甚と不都合なり、既、千八百十二年、即ち、我、文、化、九、年、の、頃、佛、蘭、西、の、君、ホ、セ、カ、ン、ほ、ち、け、る、こ、い、ふ、人、六、十、万、人、の、大、軍、を、帥、て、魯、西、亞、に、攻、入、り、も、ま、さ、こ、う、い、ふ、都、ま、ま、く、押、寄、と、せ、ど、も、魯、西、亞、人、ハ、ま、ま、に、取、合、を、自、分、ら、其、都、を、燒、拂、一、國、の、奥、の、方、一、立、退、し、り、佛、蘭、西、人、も、せ、ん、う、と、ま、く、

軍勢を引上とり此時も佛蘭西の方へ大雪に苦  
 死人多うりいよなきども魯西亞ふいさま  
 での損亡あうりしとをり  
 魯西亞の都べいとるまほるふい糸さといふ河  
 の畔にあうりよを場所まりあまよる西の方七八  
 里の所糸さの河尻に當るあろんをたつととい  
 ふ小島あうあの嶋にい古より堅固に臺場を築  
 き世界中の評判をりいが尚又近來ハ益々嚴重  
 にして鉄張の臺場を築しといふるなる軍艦に

てもあの大臺場と攻落もあとい難りるべし一  
 魯西亞ハ寒氣強く冬分ハ川にも海にも氷張詰  
 て厚さ五六尺にまりいといとるまほるふよりあ  
 ろんをたつとまで七八里の間氷の上と騎馬に  
 て往來をべし右の次第に付冬の間ハ敵船の襲  
 来る氣遣もまし  
 魯西亞ふの家柄と唱ふる人ありて地面を所持  
 生涯年期の奉公人を多く召抱て甚ど祐福な  
 る者ありさまども其奉公人と自分の手にて兵

卒に仕立るまとは出來を都て國法ハ嚴重なり  
 何事も國帝の勝手次第にて英吉利其外の國々  
 の如く評議役といふ者あり  
 魯西亞ハ英吉利亞米利加などの如く出交易と  
 專とせむ一体國の産物に國と富し唯地面と  
 廣めんとして心掛る様子なり既に六七年前ハ支  
 那滿州の地を取りまともあり然るに今茲の  
 夏ハ亞米利加にある魯西亞の領分と七百二十  
 五万どるらるに不殘合聚國一賣渡しとり期

く東の方の地面と取西の方と棄るハ何り深  
 き目論見のあつたとある也

佛蘭西又法即期

佛蘭西ハ日本と去るまと西の方五千里歐羅巴  
 繁昌の國々の真中にある大國なり國中の人数  
 三千五百万人平地多くして時候程能く草木上  
 く成長し五穀よく登る此國ハ産物多く交易  
 の繁昌するまとの英吉利亞米利加に較て少  
 及むところ所もあまとも其外の國々にてハ連



佛蘭西と張合ものありるべし佛蘭西に重なる  
 産物ハ小麦蜀黍葡萄の類なり殊に葡萄ハ銘  
 産に色々の酒と造り世界中積出を佛蘭西  
 の葡萄に酒と造る高一年ふ二千万石よりも  
 多く酒の種類二百五十種あり此外の産物ハ金  
 物油毛織物縮布婦人の髪飾化粧道具等小間物  
 多しりよんなどいへる所ハ織物の名所に世  
 界中に評判高し  
 佛蘭西にハ學者多く世界第一ともいふべき學

問所あり殊に佛蘭西語ハよき言ふに歐羅巴  
 の諸國にててもとと調法せり人の評判に世界  
 小廣く通用するハ英吉利語に限り言葉の上品  
 なるハ佛蘭西語に限るといふ程の古となり  
 此國の人ハ勇氣よく何事とするにも手早し且  
 一休ハ華美なる風俗みて芝居鳴物等と好む食  
 物よりも衣服の方ハ奢る者多し即ち佛蘭西人  
 の着倒まり  
 佛蘭西の政事ハ七十年以來度々改革して今と

う二十年以前の頃ハ暫ク輪番持の政府となり  
 一が嘉永五年乃以をまほまかんといふ入策略  
 と以て天子となり即ち今の佛蘭西帝をばまか  
 んなり此人ハ一項零落して一錢を以て諸国と  
 流浪せし程の有様なり一が一体英雄の器量あ  
 る人にて天子の位不即てより国中の政事を自  
 分一人に引受て内外の事とよき様にと取斗ひ外  
 国と合戦をまじはつても勝利を得て國內の人  
 のまならむに歐羅巴諸国の人までも佛蘭西帝と

一ハバあまを恐まざるものなり今茲行年五十  
 八歳皇妃ハ不相應に若し評判の美くなり太子  
 一人あり年十一才  
 佛蘭西の陸軍ハ古より大造なるものにて六十  
 年斗以前なほまかんが友をすてのときハ歐羅  
 巴中と切從へし程のあとなり當時も魯西亞の  
 陸軍ハ引續く程の人数あり但し海軍ハ魯西亞  
 よりも盛にして唯英吉利不及をざるのこ  
 佛蘭西の都をたりまといふ其奇麗なるあと歐

佛蘭西の都をたりまといふ其奇麗なるあと歐

佛蘭西

羅巴州中の第一に即ち世界第一の都といふ  
 一市の中の家ハ六階七階に立並び夜分ハ往來  
 萬燈と照らして晝夜の差別なく其繁昌華美  
 多寡と譬んりたる一但一人の數ハ百万人餘  
 不都の廣さも英吉利の「ろんどん」よりの狭一  
 日本にていへば「わりま」大坂に似て「ろんどん」  
 ハ江戸に似たり

葡萄牙

葡萄牙ハ歐羅巴の西南にあり此國往古ハ盛に

て渡海ノ骨と折リ亜非利加の喜望峰を廻て  
 印度海へ往來の乗筋と開きたる者も葡萄牙人  
 たり其時ハ世界中に領分多く頻ハ出交易と勉  
 て既ハ足利時代の末ハ九州に來て交易せし  
 去ともありしが其後次第に衰微して當時ハ歐  
 羅巴に於ても更ハ勢なき國となり人の數三百  
 五千万人に足らむ時候ハ程よく菓實多し産物  
 ハ酒塩油等あり羊毛も此國の産物なるとも去  
 きて羅紗に織る去と知らむ毛の終に外國

一 積出し却り外國の羅紗を買込む様子なり政  
 府より學問の世話行届うむ國の人都市情弱に  
 して何事ふも出精まるおとまり國中の蒸氣車  
 の路も少くして商賣繁昌せむ婦人の頂に野菜  
 物と載て市中に賣出すなどの余程田舎らしき  
 風俗まり  
 葡萄牙の都りもぼんぼんとぬふ河の口にあ  
 りて景色よし此河口ハ入海となりて船掛もよ  
 く昔ハ繁昌なる港なりし由なきども此節ハ交

易ゆ少し且彼國の十七百五十五年却ち我實曆  
 五年の頃大地震のためは市中の建物不残潰れ  
 今日に至るまで旧の如く普請も出來どして家  
 並宜しうらむ此地震のときりむが人の死入三  
 万人なりしといふ

李漏生又普魯士又ぶらゐま

李漏生ハ東の方魯西亞に界し西の方佛蘭西白  
 耳義和蘭ハ界し領分の内東西二ホ分て其間に  
 他國あり國中の人別十六百万人英吉利佛蘭西

まど 肩と比ぶ大國なり  
國中平地多く牧と開く牛馬羊と飼ひ五穀もよく  
登る外國との交易のあまり繁昌せざざども  
國の産物にハ木綿毛織物鉄の道具類多し又  
ろんとハふ所ハ香水と製する名所なり日本に  
舶來する香水も多く此所不て出來たるものな  
り  
亭漏生の都とべるアんとといふ學問所多し都  
此國にハ學問の世話よく行届き牢屋の中の罪

人にまでも書と讀むる風俗なり故に國中の人  
田舎の隅までも大抵讀書の出來ざる者あり世  
界中一番の文國といふべし  
寺漏生ハ昔より陸軍の法よく行届き國中の男  
にハ不殘調練と仕込る合戦のとさハ一國舉  
戰場に向ふ仕來不せり近來ハ益々去と盛に  
し且びをまゝくといふ英雄の人執權職に居る  
國の政事向と取扱ハ一昨年の丁抹と戦ひ去正  
の夏ハ又澳地利と戦く何れも去れに打勝ち東

卷之二 國記  
一 國記

西の領分二の間あり一國とも攻取る今ハ一  
 圓の大國となまり當時歐羅巴に、李滿生とい  
 へば實に日の出の勢ふくまを恐るもの  
 あり今茲の夏も佛蘭西と仲違してやがて兩國  
 の大合戦ともあるべき様子あり一がよき仲人  
 あり、無事に和睦し、とり佛蘭西はどの大國に  
 ても李滿生ハ手強と相手あり  
 李滿生にハもと海軍ふり一がども十六七年  
 前より軍艦と造る當時ハ海軍も相應に盛まる

よー

瑞西一名瑞士又「セルム」をよ  
 瑞西ハ歐羅巴第一番の山國なり海あり國中の  
 人別二百四十万人に足らざる小國なるとも政  
 事向よく行届る風俗より國の人都在りざりと重  
 ント國と大切に思ひ正直一片に、惡事をこそ  
 者甚ど少く何事小も出精して學問の道も開け  
 産物も多し  
 此國の政事ハ寄合持に、國王もまゝ亦大統領

といふ者もあし國と二十一郡に分く一郡より  
 二人づつ評議役と出しあまを上院といひ又國  
 中の入別二万人の内より一人づつ割合ふ  
 評議役と人撰してまれと下院といふ何れも三  
 年づつ交代あり斯く上下二組の評議役と立  
 べらんといふ都に奇合る國の政事と取扱ふ  
 とあり  
 國中平地少くして農業に不都合なまどゆ人  
 の力に穀物も出來牧とも開く牛馬多し殊に

此國の馬の小形に山坂を越るに丈夫なり又  
 せねといふ湖水の畔にせねといふ市中  
 り瑞西國中一番繁昌なる所に世界に名高  
 時計の名所なり日本各地に舶來する時計も大  
 抵せねに出來たるもの多し此所に一年  
 の間に製する袖時計の數二十三萬其外置時計  
 かもあつ指輪等小間物と造る職人三萬人より  
 も多しといふ  
 瑞西の山國に湖水多く山水の景色甚どよ

さとども寒氣強くして春夏秋冬山の頂に雪の  
 消るまとも春さきに雪解のときハ山の上よ  
 リ雪の塊潰へ落く往來の人と打殺し或ハ村の  
 百姓家と押潰せまともあり又此國におるわいん  
 もんはひるとして大なる犬ありよく人のいふ事  
 と聞く冬の間の寺の供養に此犬と山路に出  
 し雪に埋りし人を齧付る人命と救えしむると  
 いふ

白耳義又ベトドセむ

白耳義ハ和蘭と佛蘭西との間にある小國な  
 どハ土地の割合にしてハ人の数多く國中の人  
 別四百四十万人あり土地柄よくして農業の行  
 届とるハ歐羅巴第一あるべし産物の五穀菽根  
 麻煙草等又石炭の多くして鉄類其外の金物と  
 製せるまともハ英吉利に續く盛なり  
 白耳義の都とぶろつせるまともハ市中甚ど奇  
 麗なり土地の名産ハ毛織の鋪物ありとまよ  
 り南の方四五里の所にわあところろうといふ古



戰場あり即ち彼國の千八百十五年文化十佛蘭  
 西帝ふ汝をかんがむるて英吉利の名將あり  
 りんとんと合戦して佛蘭西の軍勢敗北せし所  
 なり此國に昔より度々大合戦ありて今に  
 も方々に城跡多し  
 白耳義の内ふる最も商賣の繁昌する所を  
 とるふといふ此所より方々へ蒸氣車の路も  
 通し且國中に堀割の川多くして運送の便利甚  
 どよし市中小天主堂あり高さ四十四丈一尺世

小珍らしき大寺あり  
 白耳義ハ四五十年前暫く和蘭の支配ありしが  
 彼國の千八百三十年天保宗旨みどのおとに付  
 彼是議論ありて遂に兩國相分ち別々の王國と  
 なりしより双方の居合もよく太平無事に  
 今日まで及べり初代の白耳義王とてとほる  
 どといひ去年死去し今ハ二代目なり  
 伊太里 撒丁各撒而地施亞又  
 伊太里ハ往古羅馬といひし國に歐羅巴の南

此の地地中海といふ海に張出したる細長き國  
 あり此内に幾個も小國あり一が十年斗以來其  
 北の方にありさうぢにやといふ國追々に強く  
 なりて伊太里の國々を大抵不殘押領せしより  
 さうぢにやといふ名を棄唯伊太里と唱て世間  
 に通用するなり  
 伊太里の時候暖にして且風景のよき場所多し  
 風流人の好む國なり産物の米麥蜀黍酒油葡萄酒  
 蜜柑等菓實も多し又此國の北の方にハ蘭と

養ひ絹糸共に反物とも織る外國へ積出せむと  
 多し  
 伊太里の地方を離る西の方にさうぢにやとい  
 ふ大なる島あり鯛の取とる所に此鯛と塩と  
 油を漬けぶりつきの箱に詰る方々へ積出そ年  
 月と經る味の替るまといふこの鯛の漬物とさ  
 うぢにやといふハ世界中に通用する程の名産  
 なり日本にも舶來しとるものと折節見掛るま  
 とあり

伊太里人の彫刻書画音楽と上手に一體の性質氣輕にして物事によく感心する風俗あり又家作と立派にする風ならず普請も上手なり家柄の入るなどの國王の宮殿にも劣らぬ程の構内に住居する者あり

伊太里の都と云ふれんまといふ伊太里國中一番家並のよき市中なり又ぎのわといふ所ハ外國交易の繁昌する港なり即ち此所の今より三百七十六年前初に亜米利加州を見出したる云

ろんびのまといふ人の生故郷あり伊太里の當時新出来の大国に海軍陸軍とも盛なり去年の夏も澳地利と大合戦をして船帥の敗北してはとも陸軍の方へさまで負もせざりしよ軍艦の數六七十艘もあり且此國の人元來海に馴れ風俗なる由へ行々の海軍盛にして英吉利に續くほどの勢にもなす一この評判なり

丁林加又暹羅又緬甸又暹羅又暹羅

丁抹ハ往古歐羅巴の北の方に於て大國と呼ぶ  
 一國をまとも當時ハ大に衰微して昔の姿にあ  
 らざ國中の人別百五十万人北國の割合に  
 時候格別寒うらす土地柄ハよく五穀も  
 出来且漁獵と渡世にもの多し此國ハ石  
 炭鉄の出す山なく又水車など仕掛り場野も  
 不自由に織物金物等の産物少し但し商賣  
 随分繁昌あり  
 丁抹の人ハ一体正直にして物事に精進し風

俗なまとも昔の仕來と改革をこゝろに不得手  
 あり學問ハ流行して政府よりの世話もよく行  
 届き國中に學問所の數甚多し子供の七才よ  
 り十四才までの間ハ必ず學問所へ行て教を受  
 る國法あり  
 丁抹ハ本國の地續不田畔漫へ界し居たり  
 人むれをおつといふ二國と支配し居たり  
 一昨年字漏生と澳地利とを相手にして合戦  
 と始め遂に敗北して此二國と字漏生に取ら

條約十一國記

丁<sup>チヨウ</sup>抹<sup>マク</sup>の都<sup>ト</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>べ<sup>ベ</sup>ん<sup>ン</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>へ<sup>ヘ</sup>とい<sup>イ</sup>ふ<sup>フ</sup>歐<sup>オウ</sup>羅<sup>ラ</sup>巴<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>北<sup>キョウ</sup>方<sup>ホウ</sup>  
に<sup>ニ</sup>名<sup>ナ</sup>高<sup>カウ</sup>と<sup>ト</sup>市<sup>シ</sup>中<sup>チュウ</sup>に<sup>ニ</sup>入<sup>イ</sup>る<sup>ル</sup>船<sup>セン</sup>入<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>場<sup>バウ</sup>所<sup>ショ</sup>も<sup>モ</sup>多<sup>タ</sup>く<sup>ク</sup>よ<sup>ヨ</sup>と<sup>ト</sup>港<sup>カウ</sup>を<sup>ヲ</sup>

條約十一國記終

此冊子舊冬於江戸版成然處依當春騷擾未  
弘西三冊流傳而已求得之一讀了欲令方今  
諸人亦一讀故急翻刻為藏版



條約十一國記

